（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）

常磐毎日新聞
日刊
二月一日夕刊
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

大氣豫報
今晩は北西風 晴一時曇
明日も北西の 晴たり曇たり

赫々の武勲

永へに輝く十七の英靈

北支の戰線を愛國の熱血に染めて

立花部隊は北支戰線で敵の冬季抗戰を迎撃し殲滅的打撃を與へ赫々たる武勲をたてたが十二月十三日、十四日兩日の激戰で○○勇士の貴き戰死者を出した旨三十一日原隊から發表された、このうち地方關係者は平市中鹽字岸出身鮫島弘道上等兵外川前村字小白井出身志賀三平上等兵、小名濱町出身堀越周四郎上等兵、湯本町出身比佐義春上等兵四倉町字新町出身鈴木惣太郎上等兵、飯野村出身馬目廣上等兵、上遠野村出身櫛田千代一上等兵、勿來町字大高出身根本淸一上等兵、永戸村下長井出身宗像義明上等兵湯本町三函出身數馬高男上等兵、江名町出身黒川藤平上等兵、小名濱町出身鈴木卓伍長、永戸村下長井出身鈴木茂勝伍長、湯本町天王崎出身大金義雄上等兵、夏井村出身佐藤源春伍長、草野村出身富岡孝治上等兵、小名濱町竹町出身佐藤武夫上等兵の十七勇士である

△鮫島上等兵…磐中出身の獨身者で出征前迄同村蘭秀寺の住職を兼ね小學校の敎員をしてゐた眞面目な青年で兩親は既に死亡姉は他へ嫁ぎ留守宅には弟信雄君（二二）敬明君（一九）妹藤江さん（一三）美佐子さん（一[illegible]がある

△志賀上等兵：英吉氏（五三）きくちさん（五三）の二男で獨身、實家には兩親のほか先頃中支戰線から歸つて來た兄英秋氏ほか兄妹二人があり農業を營んでゐる

△宗像上等兵…同村柴崎鶴吉さんの二男で宗像鐵一さん（四四）の娘みね子さん（二〇）のところへ婿入りしたばかりで出征前迄農業を營んでゐた

△數馬上等兵…家には父丈男さん（六八）と兄竹四郎さん（三七）等がゐるが母は既に亡く男六人女三人の兄弟の四男出征前迄内郷村磐炭につとめてゐた

△黒川上等兵：兩親は幼時に死別現在家庭には妻秀さん（二六）と養母すてさん（五九）がゐるのみ出征前迄肥料製造業を營んでゐた、尙弟金平君（三五）も出征中名譽の戰傷を負ひ目下○○病院へ入院中である

△鈴木（卓）伍長：照さん（四七）の弟で兩親は既に亡く一家は他へ轉住し現在同町には本籍があるばかりで男五人女二人の七人兄妹の五男である

△鈴木（茂）伍長…出征前迄橫須賀の海軍工廠に勤めてゐた眞面目な青年で實家には父勇次さん（六九）母たねよさん（五七）及び兄信興さん（三二）と妹一人がある、父勇次さんは日淸日露の兩役に出征勳八等を賜つてゐる勇士である

△大金上等兵…實家には父吉三郎さん（五三）の外弟二人妹一人があり出征前迄磐崎村長倉坑の建築係を勤めてゐた

△佐藤伍長…政吉さん（六〇）せいさん（六三）夫婦の六男で出征前迄は内郷村白水川平坑に勤めてゐた、現在一家は白水に移り同村には本籍があるばかりである

△富岡上等兵…家には孝太郎さん（四八）りんさん（四七）の兩親の外弟孝祐君（一九）盛雄君（一三）妹しづ子さん（二六）とめよさん（一〇）かく子さん（八）がゐる、出征前迄家で農業を營んでゐた

△佐藤（武）上等兵…家には兄安吉さん（三二）姉のぶさん（三三）妹さとさん（二六）があり漁業を營んでゐた

△堀越上等兵：七年前に兩親に死別れ實家には兄善六氏（四三）夫婦と子供二人と兄妹三人があり染物業を營んでゐる同君は出征前まで小名濱町の水素工場に勤めてゐた

△比佐上等兵…良藏氏（六二）母わさん（五三）の二男で獨身、出征前まで機械職工をしてゐた、實家には兩親はじめ弟妹七人があり農業を營んでゐる

△鈴木上等兵…自轉車業を營み倉次氏（四七）の二男で未だ獨身、出征前は橫須賀海軍技術部に勤務してゐた、母親には昨年六月死別れ實家には父はじめ長兄匠雄君（二七）のほか九人の弟妹がある

△根本上等兵…國吉氏（四〇）母つねさん（四二）の長男で獨身、出征前は兩親弟妹七人と共に農業を營んでゐた

△馬目上等兵…末藏氏（六三）の三男で獨身、鐵工所に勤めてゐた、實家には父と母さくさん（五三）と弟妹二人あり長兄一氏は軍醫少尉として應召、次兄勝雄君は中支戰線で戰傷を負ひ歸還した

△櫛田上等兵…實家には母あさきさん（七九）と兄勝己氏（四一）の妻子八人あり、出征前まで農業に從事してゐた

佳辰を奉祝して街頭を堂々行進

建國祭當日の平市

市民は宮城を遙拜

十一日の紀元節の佳辰には平市では奉祝サイレンを鳴らし建國祭、街頭行進等を行ふことに決定、準備中である、同日は先づ午前九時の國民奉祝のサイレンを吹鳴らし一般市民は宮城遙拜をなす、次いで午前十時より第一小學校校庭に建國祭を擧行、各團體、學校、工場、會社、銀行等參加して建國精神を發揚する、これが終了後參加者一同は三班に分れて市青年團ブラスバンドを先頭に街頭行進を展開、縣社に至り武運長久の祈願を行つて散會するものである

湯本青年の義捐米

靜岡市へ

湯本町青年團では今回の靜岡市の大火について去る二十七、二十八兩日全町に亘り義捐米を募集したところ白米十俵に現金五十圓を得たのでこの程白米は靜岡市役所宛に又現金は靜岡縣廳に送附の手續をとつた

探偵實話

桃色の燐寸（十）

平警察署　喜久地寒

しばらくして小次郎は急に坐り直して

「旦那、濟まない、何もかもかくさずみんな申上げんす。當世の旦那方にあ、とてもかなあないや俺らの若い頃の旦那方だつたら、おい老耄いゝかげんに泥を吐け、このマツチに見覺えがあるだらう、なんて言はない前に拳骨が横面に來てゐたものだつた。旦那の樣にヂリ／＼やられたんであ此方が參つちまあよ、監獄を出てから七ケ所で、さあ金のあつたなあ土舟だけ、あとあ骨折損の草臥れ儲けでした。年甲斐もなく女遊び等して金は全部費つちあんした」

此時、平田村で小次郎に道を敎へてやつたＦ君が、調室に入つて來た。

これを見付けた小次郎「若い旦那、先夜失禮しやんした。實あね旦那方お二人のゐた一寸手前の土藏をやる考へでしたが誰かゐる樣なんで一寸樣子を見に行つた處を旦那に見付かつちやつたから、あんな嘘を申上げ、道まで御親切に敎へて貰つて其儘金谷川の方に拔ける考へでしたが、途中で土藏を見付けたんで、旦那にあ濟まないと思つたがあの一寸先で一仕事やつた樣な譯でした。あの時餠だといつて背負つてゐた荷物あこの道具でしたよ」

Ｆ「さうだつたのか、俺も苦い經驗を一つ味つて今度は馬鹿にされない自信が付いたよ、新米刑事の試驗問題にしちやあ難解な問題だつたな」

「Ｆ君、探偵學ゝあ代數でも幾何でも割りきれぬ問題が出てくるからねまあお互ひ一生の勉強さ」

縣下の破藏事件は全部彼の仕業と判明して、それ／＼手配も解除し、吉兵衛さんにも知らせゝやつた。翌、吉兵衛さんは駐在所からお知らせがあつたので[illegible]出頭して來た。

「佐藤さん、泥棒は捕んだが金は費つちまつてお氣の毒だが、戻らない金拂ひの惡い奴に貸したと思つてあきらめてくれませんか」

「飛んでもない、金など戻つてくると、あてにしては居りませんでした。私の不注意から皆樣にえらい御苦勞をかけましたなんとも申譯ありません、戰地の息子にも知らしてやる考へです、どんなにか喜ぶでせう。これあ藏の前の池からあげて來た未だ生きてゐる鯉です。御祝に持つて參りました皆さんで喰べて下さい」

さう言つて吉兵衛さんは目の下一尺もある生きてゐる鯉を新聞紙で包んで僕の机の上に差出した。鯉は新聞紙をガサつかせながら盛ん踊つてゐる。それを見つめてゐた刑事連も、吉兵衛さんも感激の淚を光らせながら笑ひに崩れていつた。

本文中の地名並に氏名は何れ假稱、假名なることを附記して筆を擱くことにする。（終）

小名濱支局通信

再び第二學校問題を論ず

支局長　小野務平

凝り性もなき町當局と常任技師

△第二小學校の倒潰事件に就ては再三其責任の究明方に就き町當局の反省を促し是れを不可抗力として葬り去るべきものでない事を痛論した、然るに町當局は其責任者たる常任技術者を其儘交迭をも行はず使用せんとするの傾きあるは怪訝に堪へざる所と言はねばならぬ技術者亦當然責を引いて辭任すべきが妥當である筈だが、是れ亦平然として其後の計畫に奔走して居るを目擊するに至つては記者は大いに鼓を鳴らして其非を攻めざるを得ない次第である。

最近途說の傳ふる所に依るゝ防風用器として萬端準備すべきを命ぜられながら之を實行せざるの行爲ありしと云ふに至りては全く監督者の大弱からかかる損害を町民に嫁したもので其罪は斷じて免じ難き瀆職行爲であつたを斷ずべきものであると、この一事に流布さるゝに至りては町當局として猶又技術監督者を庇護せんとするならば其處に大なる秘密の潛みある事を疑はざるを得ない。

何故にかかる人それたる大井某をして斯くまで庇護を與へんとするかの一事に至つては何か兩者の間に默契でもあるのではないかと云ふ疑雲が掩はれてある事を深く考へねばならぬ、唯々町當局は責を一身に負ふて故なくして氣の毒だとの皮想の觀念かしら之に庇護を加ふるが如き事あらば小事に捉はれて大事を誤るものであると斷じてよい

彼れが媚態を捧げて窮訴哀願するを氣の毒との考へ其哀願を容るゝあらば遂に第二校は伏魔殿と化し危險此上もなき建築物として生徒を託するの如何に憂ふべきかを思はしむるものである。

記者が如斯三再に亘つて切言する所以のものは大井某の技術と其非人格とを知つの故で彼が常に其請負に係る事業が幾回となしに誠實を欠く事を敢てする事を知るが爲めで、本町が何故に彼を重要視してとの大建築に對し常任監督となしたかを今更の如く不思議に思ふ一人である。

以上は抽象的に過ぎざる概評であるが既に現はれたる事業其物に依つて彼の人物は立派に證據立てられて居るに徵じても決して信頼を置けぬは明々白々である、恰もよし第二校第二工事の木材等未だ出揃はざる今日に於て町當局は記者の苦言を容れて彼の監督を解き更に信頼すべき技術者を採用して再びこの轍を踏まざる樣特に甚大の注意を拂ふ事を此機會に臨んで苦言を呈し町當局の反省をも併せ促して以て學校百年の大計に誤りなからしめようとする老婆心に外ならないのである請ふ之を諒せ。

（完）

婦人の友の落合女史が明日來平する

友の會組織の協議

平市に於ける『婦人の友』愛讀者は菅間判事夫人の指導下に作つて『友の會』を組織し銃後の家庭改善に努むる目論見で種々準備中であつたが明二日婦人の友社友の會中央部主任落合うの女史を迎へ協議する事になり當日午後一時卅分から紺屋町湯本無盡樓上に小集會を催す筈で落合女史の家庭改善の試みに就いての講演もあり會費卅錢、愛讀者以外一般婦人の來會を歡迎すると

主婦に呼び掛け防空群の協力を求む

平署の火防督勵

平署では最近の火災頻發に鑑み管内各家庭防空群の協力を得て火防督勵につとめることになつたが從來のやうに單に形式的にリフレットを配布したゞけでは實績が薄いので細胞組織による家庭防空群擔任者の主婦に呼びかけ一層火防觀念の徹底に全力を傾注することになつた

郡南の休業

植田勿來各商業組合ではこの程役員會を開き舊正月の一、二、三日間自肅休業を申合せた

今度は一齊に釀造家を襲ふ

中には水四割五分

是れでも立派な吟釀酒

既報去る二十八、九の兩日市内一齊に酒の檢査を行ひこれが違反を摘發した平署經濟係では更に三十、三十一の兩日に亘り管内三十余軒釀造家を襲ひ檢査した結果某釀造家の如き水を四割九分も割つた上立派な吟釀酒として販賣してゐたこと判明引續き取調中である

緬羊飼育

本部泉村に

植田方部二町八ケ村農會が聯合して時局下の農村副業として最適の緬羊飼育を普及することになりこの程菊多方部緬羊組合聯合會を結成したが本部は泉村に設置して今後增産の實をあげる筈

就學兒童が減少

本年よりも五十名少い

まだ手續未了か

平市における明年度就學兒童は男子三五一、女子三六九、計七百三十名（本籍三〇一、寄留四一九）で本年より五十名減少してゐる最近の人口增加の傾向から見て是れは寧ろ不思議な現象でまだ入寄留の手續が濟まぬ爲めでないかとみられて居る學校別は左の如し

△第一校一八〇名△第二校二二五名　第三校二二六名第四校八九名

防空群獻金

勿來町大日本炭礦家庭防空群は過般棚外のボヤの際に活動炭礦より金十七圓を贈られたがそつくり植田署を通じ國防獻金した

財務研究

團體事務所

縣では町村財政を確立するため各地で財務研究會を開くが地方は來る十九日平團體事務所で開かれる

泥棒の傍ら無免許

四倉町本町無職渡邊辰五郎（四九）は乾鰯や鹽鰯等十万圓分を窃取この程四倉署に檢擧されたが取調べの結果同人は無免許で昨年六月以來二十九件周旋を行つてゐたことも判明した

記念祭に五千圓

本郡町村長會から

石城町村長會では皇紀二千六百年記念橿原神宮造營並に記念祭に金五千圓又靜岡大火義捐金として金七百圓を寄附することになつた

皇軍將士のお蔭

半島人の奉公日獻金

内郷村磐炭坑大朴朱祥さん外百四名は今一日の興亞奉公日を記念し平署を通じ金二十二圓を國防獻金したが

私達が三度々々御飯を食べ毎日樂しく働いてゐられるのは皇軍將士のお蔭です、全く感謝のほかありません、今後は酒や煙草を節しても獻金を續けたいと思へます

といふ意味の手紙が添へてあるばかりか地方で半島人の奉公日獻金はこれが最初だけに係官も感激してゐる

天然痘

豫防に萬全

平署では三十日埼玉縣下に發生した天然痘の管内流入を防止すべく、臨時種痘を實施し更に埼玉縣方面からの來入者に對しては嚴重保菌檢査を施行し豫防戰線の萬全を期することゝなつた

平市人事

下平窪字鍛冶内一四丹野甚市氏八女止子さん

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 童話劇「興亞の歌」仙臺市北五番丁高等小學校兒童
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 琵琶「つるぎ」伊藤松雄
▼後八、〇〇 十分間演藝「ほがらか日記」「小さな力士」小泉忠、中村めい子、若杉富士男
▼後八、三〇 時局談話「現下の石炭問題」燃料局長官東榮二
▼後九、〇〇 連續ラヂオ小說「石狩川」本庄陸男

明日の部

▼前九、四五 幼兒の時間 ハナシアヒ「シロイモノクロイモノ」大阪市曉明館幼稚園兒
▼前一〇、〇〇 家庭メモ
▼前一〇、一〇 家庭講座「時局下の育兒」醫學博士山本杉
▼前一一、〇〇 小學生の時間「低學年」私タチノシンブン東京市[illegible]町小學校兒童岡田五郎
▼後〇、〇五 琵琶「雞牛門」鈴木平水
▼後二、〇〇 小學生の時間「高等科」一月の學校新聞大阪[illegible]校劇研究會
▼後三、〇〇 婦人の時間「日滿兒童の親善」西尾好子
▼後三、三〇 敎師の時間 文部省發表事項の解說
▼後五、三〇 座談會「土の戰士の體驗を語る」司會宮城縣社會敎育主事末永延壽
▼後六、〇〇 子供の時間 呉海軍軍樂隊
▼後六、二五 講演と實驗「大阪高等醫學專門學校より中繼」「聞えぬ音を聽く」醫學博士雀用久吉
▼後七、二〇 鄕土に寄する言葉（錄音）青山學院長笹本順造
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 講演（中支より）
▼後八、〇〇 管絃樂 日本放送交響樂團、指揮齋藤秀雄
▼後八、四〇 連續ラヂオ小說石狩川
▼後九、一〇 時事解說

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

戰國間諜傳

大井沢一龍作　山科一郎畫

第百六十九回

助命願（二）

[illegible]奉行所から[illegible]されたので、本多[illegible]は、今度は御主人[illegible]から殺害させた。しかし奉行島田利政は御上からの御命令なればと云つて、体よく斷つてしまつた。

四人を[illegible]させて調べて見ると隔の云ふ通り、天隱院[illegible]上人だけは、全く、事情を知らずして、小姓に抱たることが分つたけれど忠五郎は何處までも隔を庇つて、自分一人の罪になすべく、頑固に言ひ張つた。

「これ忠五郎どの、何を御言ひやるぞへ、妾のために、宿の世話をしてくれただけの罪、その外のことは何も知らぬ者が、何んで妾の罪を引きうけやうとするのかへ、その恋はまことにうれしけれど、罪になつた、そなたたちに妾、罪まで負ふであろうとは思はぬ、御[illegible]。此の人達には何の罪もございませぬ。妾一人のなしたる業なれば、妾一人御仕置きなされて下さりませ」

それを忠五郎がさへぎつて

「何を仰せられます、お嬢樣、貴女の樣なまだ御若い女の方のなされることではございませぬ。奉行樣、皆この忠五郎奴がやりましたこと、お嬢さまも、御上人樣も、罪はございませぬ。殊に總治大次郎は、私が無理にたのんで世話を頼みましたものにて彼は何も知らない者でございます。此の忠五郎一人どの樣な御仕置きに會ひましてもさら／＼に不足はございませぬ、何卒後の三人を御ゆるしなされて下さりませ」

それをきくと大治郎が進み出て

「いえそれは違ひまする。忠五郎だけの罪ではございませぬ、私も御供してやりました次第でござります。天隱院へお嬢をついて御たのみいたしました。忠五郎と同罪、御仕置き下さいませ」

みんな競ひ合つてゐる。

忠五郎にしてみれば、どうせ自分は[illegible]にかけて殺した罪故[illegible]罪を仕負つて潔よく死んで行こうと覺悟してゐるのだつた。だから一緒に[illegible]云ひ張つたところがその殺した[illegible]つてゐる女房お隔は、河の水に[illegible]して人に救われて生きてゐた。そんなことゝは忠五郎は夢にも知らなかつたのである。

いつまでも、いや妾ぢや、いやわたしぢやと云つて三人が主張て果てしがない。其の時奉行も感激してしまつた。成る程よく聞いて見れば、隔には重大な罪あれど後の三人には、たゞ[illegible]を助けたと云ふに過ぎぬ、[illegible]へる身でもあり、もう[illegible]となれば、天隱院だけは

「きつと叱りおく」

と云ふことで早速放免された

しかし何んと云つても忠五郎は、事情を知つて助けた罪、從來なれば、[illegible]御仕置きになるべき[illegible]のところなれど、神妙なる心に免じて、一死一等を減じ遠島[illegible]、江戸[illegible]へと云ふことになつて、その寛大なる取りはからひに皆[illegible]せた。

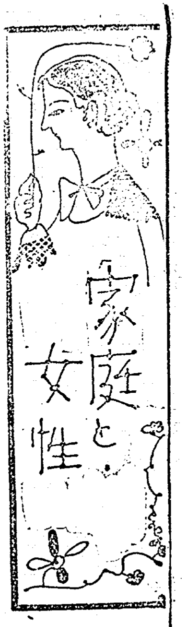
隔は天下の罪人、しかも[illegible]家をねらつた大罪人、[illegible]然の者なれば、[illegible]まで何ひなくて、その命令の元に、廻つて[illegible]に行ふべきものと[illegible]て、牢へ又下げられた。

牢へ下げられた隔は、もはや死の覺悟をきめて、其の日の來るを靜かに待つてゐた。

そうゆをきめると、ちつとも悲しくも苦しくもなかつた。自分の自首したことによつて、彼の三人も許された事に、大いに滿足をおぼへてゐた。

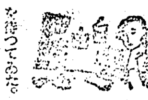
牢では、天下の國罪人であるから、獄囚の役人が、つきつきりでかへつて、鄭重にあつかわれたので大して苦痛ではなかつた。

役人に敬へられ、[illegible]めば、心の中のすべての怒りわはらへて、靜坐をつゞけてゐた。



三つ子の魂

山地延枝



その一　ある終點でみんな並んでバスを待つてゐた。バスが來たので順々に乘らうとすると六、七歳位の男の子が列をかきわけて車の方に出　すばやく乘り込むや、腰掛に長々と横になり、そこへ大人たちがかけさせないやうにした。やがて他の席は滿員になり、立つ人が殖えたころ二人の女が乘つてくると男の子は「母ちゃんと姉ちゃんこゝだよ」と呼んで、ずい分おそく乘り込んだ母親と姉に席を與へた。

二人の女は別に顏を赤らめず、その子をたしなめもせず、平然と腰をかけた。

その二　ある停留所で滿員のバスに母子が乘り込んできた。

勿論空席はない。すると子供がいきなり「かけなきやいやだア」とむづかり出した。

五つ六つではまだ分別がつかぬと云へばそれまでだが、私には、他人の中で我儘は通らぬ事ぐらひさとせばきゝ分ける年ごろだと思へるのに、若い母は云ひ聞かせやうともしない。

そのうちに近くの人が席をゆづつたが、子供は當然の要求がいれられたやうにし か挨拶はなかつた。

日本人は死ぬ迄公衆道德に缺けてゐると云はれるが三つ子の魂百までといふことはざを考へれば、子供のしつけこそ母親のもつと留意すべき事ではないかと思ふ

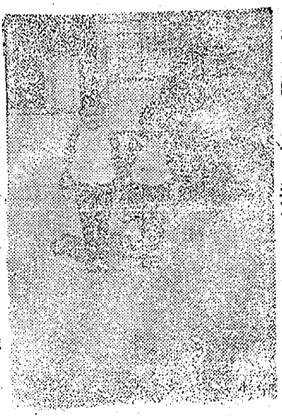
子供の健全な發育には 有效な遊ばせ方が肝要

冬にはどんな遊び方がよいか

今年は燃料不足などの關係で家の中も例年より寒さはきびしいものと思はなくてはなりません、家の內外も寒い中で子供を戸外に遊ばせるか否かはやがて幼稚から先の成長期にいちぢるしい影響があります　子供の健全な身心の發育を[illegible]はれる父母にとつてこの問題は極めて重要なことです、霜田[illegible]氏の御話を伺つてみませう

：：

小學校一・二年位の兒童の冬季にあそばせるにはもし男兒ならば戸外における　凧揚げ　が第一でせう、それも製品を買つてきてあそばせるよりも自分でこしらへてあそぶやうに指導してやることが大切です　自分で凧を工夫するといふことは實に價値のあるあそび方で



あるばかりでなく今日のやうに物資の不足してゐる時にはぜひともさういふ經驗からあそばせるやうに留意しなくてはなりません、日本は幸ひなことに竹が澤山あるのですからタコの作り方はすこぶる簡單です材をいろ／＼に組合ていろいろな形のタコ——一ばん單純ないかメッコからかめの子々それから日本特有の四角タコと、いふ風なものをつくつてあそばせうちに子供の創作能力が自然に培はれ自分でつくる重要な價値をはれることになるのです、もちろんさういふ創作的なあそび　に一人に任せておいたのでは大へん危險ですから必ず父親なり母親がそばにゐて一緒にあそんでやることです。女兒は羽根つきも結構でせう

石蹴り　と云ふやうな遊戯も冬の間は大いに奬勵すべきでせう、[illegible]遊戯は子供は戸外[illegible]がほとんど無[illegible]間に[illegible]てしまふのです

砂場の利用法としては冬の間は砂場を適當な土俵に改造してそこで相撲をとらせるやうにしたらどうかと思ひます、天氣のいゝ日にえらんでさういふあそばせ方をしたらどんなに身體の上にもまた精神の上にも好影響があるか分りません、室內のあそばせ方としてはピンポンあそびが最も效果的だと考へてゐます、六、七歳位の子どものあそばせ方はゲーム遊戯がまだ缺如してゐるため非常にむづかしいのですが室內用のすべり台やぶらんこあそびはおいて[illegible]は手戯的あそびをすゝめます、手戯的あそびの中にはいろ／＼のものがありますが折紙や

切り紙　就中折紙は日本固有の物として大變結構なものです、そして折紙あそびなどは學校で一齊に教授すべき性質のものではなくて家庭で母親が手にとつておしへるべきものです手先が器用に働くかどうかは六、七歳頃の折紙あそびをやつたかどうかで決まるといつても過言ではありますまい、折紙あそびの外に繪を描かせてあそばせることも非常に大切です、この描かせあそびは早ければ早いほどいゝもので鉛筆でかゝせてもクレヨンでかゝせてもいゝ、用紙は新聞紙の裏でもその他利用できる紙を利用して子どもの好きな物を自由に澤山かゝせるのです。六、七歳のこどものかくのは多く錯誤ですが、このわけのわからぬ錯誤を親は充分尊重すべきです、どんなに下手でも決してくさすことなく賞讚してやらねばなりません　この

繪遊び　によつてこどもの頭や腕がどんなに進歩するか分らないのです

次に音樂によつてあそばせることも大切です、日和のいゝ日、[illegible]い縁側などで美しいメロディーの音樂をきかせるやうにします、この[illegible]よりもヴアイオリン、チェロ、クラリネット等の美しい音樂がいゝのです、童謠は童謠が分りはじめたこどもには必要ですが六、七歳くらひのこどもには快い音樂たとへば（ブラームス、シューベルトなどの子守唄）でいゝのです、さうしますと音樂はこどもの[illegible]へてこどもはひとりでに手や足をはねて遊びます、舞踊への一過程としてもこの音樂によるあそばせ方は重要だと思ひます

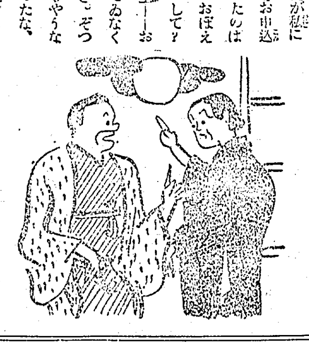
社頭の雪

……小ばなし……

「今年くらゐ火事の少かつた年はないさうだ」

「はゝあ、やつぱりマッチ[illegible]のためだナ」

涼しい想ひ出



妻——あゝ、ねえ良夫[illegible]、今夜のやうな晩でしたわね、あなたが私に結婚をお申込になつたのは……。おぼえてらつしやて？

亭主——おぼえてゐなくつてさ、ぞつとするやうな晩だつたな、さうだらう？

浮世かるた

いろは四十七諷刺

い　色の黒いが[illegible]
ろ　論議百より炭一俵
は　箸にもかゝらぬ七分搗
に　睨んでとほるは[illegible]
ほ　ほたるの光[illegible]
へ　屁にもならない[illegible]
と　とんと御無沙汰バア、カフェ
ち　チリも積らぬサラリーマン
り　律義な商人損ばかり
ぬ　ぬらりくらりの公定價格
る　留守の一手の大晦日
を　拜んでも買へぬフリの客
わ　われんばかりの朝のバス
か　金あつて物買へず
よ　夜のメータク[illegible]メーター
た　タバコくわへて火さがし
れ　列をつくつて[illegible]買ひに
そ　そんなに引くなスフの[illegible]
つ　つくづくながめる火鉢の火
ね　値段によつてはございます
な　[illegible]の戰捷[illegible]
ら　ランプはよいが、さて油
む　昔なつかし[illegible]
う　賣つてつかはす[illegible]
ゐ　[illegible]にそつとだし
の　のろのろ[illegible]
お　奥さんにも[illegible]
く　くぎも[illegible]商人
や　家賃安いが[illegible]高い
ま　マッチも[illegible]
け　[illegible]
ふ　[illegible]なし
こ　米は七分で腹八分
え　縁談も廢品大盛況
て　手柄の買ため夫人
あ　空家一つに借手が八人
さ　札ビラきるのは職工さん
き　聞きあきた何[illegible]
ゆ　昨夜の夢は[illegible]
め　珍らしや白い飯
み　見た目はよいがオール、スフ
し　人的資源がまた一人
ゑ　[illegible]は炭が買えた人
ひ　[illegible]にも[illegible]あり
も　もうすぐもうすぐとお役人
せ　背に[illegible]
す　[illegible]
……
……
……

赤ちゃんの病氣

多くは育てる人の不注意

消化不良の場合

こどもが發育中に色々の病氣にかゝることは、その病氣の全治までに手間がかゝればかゝるほど又長ければ長いほど將來の智的發育、能力的發達の妨げをするので病氣にかゝらせぬやうにすることが大切です、況して赤ちゃんの病氣の多くはこれを育てる人の不注意から來るものが多いことを考へて十分に平生から注意すべきであります、赤ちゃん時代に多い病氣の手當について二、三記して見ませう、第一に消化不良症で、これは母乳を時間正しくあたへてゐるやうな場合にはあまり起りませんし、また起つても早期ならば治療し易いのもありますが

人工營養の赤ちゃんだと牛乳や粉乳などの取扱ひに不注意でとつたりすることから起り易いので、母乳營養の赤ちゃんでも離乳期には起りやすいので乳が離れてだんだん新しい食物を與る時期には特別に注意しなければなりません、それを早く知る方法はやはり便に注意することです

手當として一般にお母さん方の傾向を見ますと、便が惡くなつた、さあ食餌をうんと減らすといふことになりますが、それも結構でありません、然し一旦減らすとそれを元に返さうといふ方へはなかなか頭が向かないで、いつまでもそのまゝ續けてをられることが多いのであります、これは全く誤つた考へでありまして、發育盛りの赤ちゃんの時代には消極的な方法では決して元通りの便にはなりません

不滿的 井戸端會議

らか頭では女が二、三人あつまれば話は終始、米がない、炭がない、物價が高くて暮しが大へんだ、そしてやがては政府のやり方もずゐ分下手だとか、お役人も智惠がないわ、といつたお役所批判でもちきりです。昔の井戸端會議とはちがつて、內容はどうしてなかなか政治的であり、經濟的であり、時事的です。いつてみればこれも女が社會的に目ざめた證據のせゐでもありませうが、何から何まで不滿不足を訴へ、社會のお粗末をかこつ話の內容ではどうにもなげかはしい次第ではありませんか。女はとかく愚痴つぽいさうが、こんな話ばかりを女がするといふのも、考へて見ればほんとうに[illegible]が彼女たちをさうさせたといひたいものです。

時局小說 驀進

（[illegible]映畫化）

士別　樹
北野傳畫

第六十五回 青年（五）

男は間もなく氣がついたが、頭が血にまみれてゐた。

浩は[illegible]か込んつた[illegible]のあるらしいのを察して手術を聞いても、男は砂の上に坐り込んだまゝ返事もしないでゐる。

氣がつくと、向ふの方から人が大勢駈けて來るのが月明りに見えたので、由美子はビックリして

「浩さん、皆集まつて來たわ、もういいから歸りませうよ」

と云つた。

「さうですが、ちゃ[illegible]してやりますか、それとも[illegible]へ引張りますかね」

「もういいでせう、早く歸りませうよ」

由美子にはとんだことに係合つて[illegible]になつたりしては父の[illegible]に係はると思つたので早く引上げたいと思つた。

先に迎へつて來た二三人が、バラ／＼と驅け寄つて來た。十地の[illegible]であつた。

「どうしたづらかね……」

「喧嘩づらよ」

男が[illegible]打撲で頭を洗つてゐるのを見ながら、驅けて來た漁師が聞いた。

「なアに喧嘩は喧嘩ですが、人[illegible]ひさしてね、[illegible]お嬢に[illegible]りの[illegible]い「ひ・ーしてゐるところですよハハハ……」

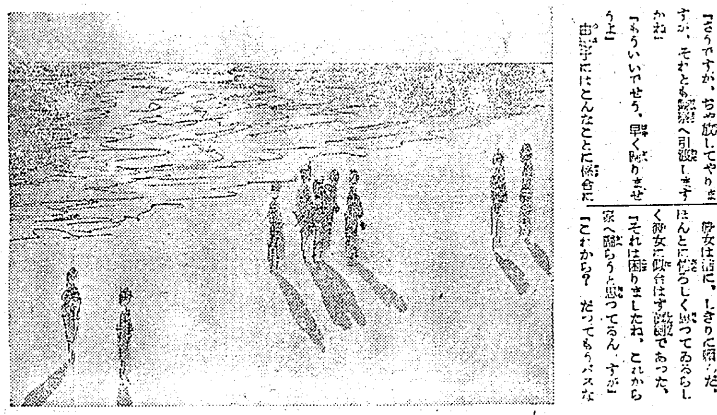
[illegible]が何でもないやうに[illegible]つたので、[illegible]も、なアんだと[illegible]けのしたやうな顔で[illegible]人を[illegible]して何かガヤ／＼口々に話してゐる。

由美子は[illegible]／＼してゐると、うるさいと思つたので、急いで歩き出した。

「わたしの爲に、ひどい目に會ひましたわね。ご免なさい。[illegible]いでせう」

彼女は[illegible]なさうに、[illegible]を覗き込んで聞いた。

「いや、大したことはありません[illegible]



「[illegible]な奴等だ、それにしても、あなたに何かの[illegible]りがないんですか　親子とか何とか云つてゐたが……」

「親子つて云ふ人はこの間家にゐた家庭教師なんですけど、[illegible]つて家を出て了つたんですのよ、[illegible]つ　わたしが知つてゐるとでも思つてゐるらしいのね」

「うーむ、それにしては少ししつこ過ぎますね、また何か云つてくるかも知れませんよ」

「まア怖い、わたしどうしやうか知ら——ねえ浩さん、あなた時々家へ來て頂けません？　私怖くつて」

彼女は浩に、しきりに頼んだ。

「それは困りましたね、これから家へ歸らうと思つてるんですが」

「これから？　だつてもうバスなんかありませんね、こんなにおそくなつて——」

「へへ……山の男にバスはいらんですよ、夜通しでも歩くのは平氣ですよ」

「でも、お願ひいたしますわ、ほんとにお願ひよ」

「困りましたね、女許りの家へなんて、泊るのは[illegible]も困りますね」

彼はほんとに當惑らしく、[illegible]繰返してゐた。

婆やはまだ起きてゐた。浩の着物に血がついてゐるのをみるとびつくりして

「まア、浩さま、こんなに血が付いて、どうしたずらか」

「ねえ婆や、今夜は[illegible]な奴らに[illegible]つたのよ。それでわたし怖いから來て頂いたんだけど、泊るのは[illegible]、婆やからも頼んでよ」

「まアそれはえらい目に會ひなさつたなんで、浩さま、泊つてつてもいいずらよ。また途中で[illegible]でもあると大變ずら」

[illegible]

かき料理・なべ類 始めました
…是非御試食下さい…

かきふらい　あんこども酢　たらちりなべ　はもなべ　かきなべ　鳥なべ
かき酢ノ物　よせなべ　ちりなべ　あんこなべ　ねぎまなべ　牛及豚なべ

……此外御註文に應じ色々調理致します……

出前持
炊事婦
至急入用

平二[illegible]星通り
魚清食堂
電話六五三

これは便利！
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▼つけておくだけで洗へる
おちのよい
㊤マルミ粉末石鹸
製造元　平市材木町[illegible]　電話(呼)四〇八番

風熱頭痛
アコーラヒダ
本品は當藥局主藥劑師責任調製研究せるものにして解熱、鎮痛鎮心興奮の作用を有する。故に流行性感冒、頭痛、肺炎齒痛、ロイマチス腰痛等に効あり大人一回一包宛特に白砂糖にて頓服す。
正價　三十錢、五十錢、一圓

喘息百日咳
鎭咳藥「アコー」
本品は長井博士發見麻黄エフエドリンを主藥に高貴藥數種配合せるものにして喘息百日咳肺炎急慢性氣管支カタル、感冒等々喀痰咳嗽に効有り
正價　五十錢、一圓、二圓

平市古鍛冶町一〇（縣社石段下）
製劑發賣元　阿康藥局
責任者藥劑師　明治藥學士　阿部康雄
電話四四番　振替東京〇〇六五番

移轉廣告
今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候
昭和十四年四月
平市南町十四番地（警察署通り角）
（舊診療所　平市六丁目）
木村外科醫院
外科一般
內臓外科
性病科
肛門病科
◎入院應需
木村淳
電話三〇九番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話五八番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

鐵道指定旅館
割烹　小瀧
小名濱電話一〇三番

株式先高必至
現物の買時
優良株御案內申上げます。
株式日報御申越次第御送付致します。
有價證券賣物問屋
富岡靖介商店
平市四丁目（電話一九一番）

內科一般
外科
金成醫院
金成忠義
平市[illegible]町　電話三五八番

專門
花柳病科
婦人科
產科
▼入院隨意
井坂醫院
平市田町　電話五五九番
◎見習看護婦募集

メガネは！
玉屋
平市二丁目

提灯と國旗

芳醇！美味！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

歸郷御挨拶
謹啓　時下嚴寒之候益御清適ノ段奉賀候
陳者小生今事變頭初應召以來〇〇陸軍病院外科勤務中ハ公私共多大ナル御高配ヲ賜リ大過ナキヲ得常ニ感謝仕居候
今般不圖モ召集解除ト相成歸郷仕候就イテハ今後銃後ニアリ一層勉勵仕心組ニ御座候間何卒倍舊ノ御鞭撻ヲ賜リ度茲ニ謹ミテ御挨拶迄如斯御座候　敬具
昭和十五年一月三十日
平市南町卅一番地
上田耕作
電話一二九番